令和４年度学校評価計画に対する最終評価報告書　　石川県立金沢向陽高等学校

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
1	基本的な生活習慣を確立させるとともに、一人一人の生徒にタブレット端末を活用させる授業を実践することで、生徒の学習意欲を喚起し、進路実現につなげさせる。	①	遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への意識改革指導を通して、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が１日に A　３人未満　B　４人未満 C　５人未満　D　５人以上 昨年度　４．７人	B ３．９人	大半の生徒は遅刻をしていないが、特定の生徒の回数の増加が集計結果として出ている。次年度も生徒に基本的生活習慣の確立を指導すると共に保護者に遅刻防止への協力をお願いする。
		②	決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	私は校則等のルールをしっかりと守っている。 A　よくあてはまる B　ほぼあてはまる C　あまりあてはまらない D　あてはまらない　昨年度　９２％	A＋B ９４％	学年団中心にきめ細かい指導を継続して行い、違反者にも理解のもとしっかりと対応した結果である。来年度から校則が見直される部分に関しても、生徒・保護者・教員の共通理解のもと、規範意識の高揚に繋げたい。
		③	個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれている。 A　よくあてはまる B　ほぼあてはまる C　あまりあてはまらない D　あてはまらない　昨年度　８５％	A＋B ９４％	いじめアンケートを５月と 10 月に実施し、いじめの早期把握に努めた。相談室、生徒課、学年が中心となり対応し、必要に応じて専門機関と連携した。いじめのない明るい学校づくりのために、教育相談委員会等を通して、教職員間での情報の共有や実態把握をこまめにする必要がある。
		④	一人一台タブレット端末を効果的に活用する等、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	授業を理解できるとする生徒が A　８５％以上 B　７５％以上 C　６５％以上 D　６５％未満 昨年度　７１％	B ８１％	昨年度と比べて＋10 ポイントであった。タブレット端末を用いることで視覚的に得られる情報が増えたことや、一人一台端末の活用によって、個別最適な学びが進んだことが要因として考えられる。使うことを目的とせず、効果的な学びに繋がるよう、タブレット端末の活用についてスキルアップを図りたい。
		⑤	総合的な探究の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満 昨年度　７５％	A ８４％	昨年度と比べて＋9 ポイントであった。キャリア教育に関する取組について、３年間を見通して、行事・活動を体系的に配置し、総合的な探究の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業に位置づけ、そのつながりを意識できるようにする必要がある。

		⑥	３年生の進路実現に向けて、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	第１志望校への進学、就職内定が実現した生徒が Ａ　１００％ Ｂ　９０％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満 昨年度　進学９０％、就職１００％	進学Ｂ ９３％ 就職Ａ １００％	就職においては、希望する企業についての研究を早めることと、面接以外の試験への対応にも力を入れる必要がある。また進学においては、一般選抜で合格できる力を身に付けさせる必要があり、進路指導課が中心となり、大学受験で求められる学力について教職員が学ぶ機会を設け、実際の指導に活かせるようにする。

学校関係者評価委員会の評価	・キャリア教育やシチズンシップ教育の充実が求められている中、進学や就職といった指導のみではなく、生涯にわたってどんなことをやっていくのか等、社会での役割について広い視野で指導して欲しい。 ・総合的な探究の時間について、自ら調べ、考えを発表し、対話していくことはとても重要である。将来、人間関係を築く上でのコミュニケーション力が身につく。また、探究の内容についても、自らの進路選択の参考に繋がることになると良い。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・単に進学や就職を考えさせることではなく、社会でどのような役割を担いたいのか、何を身に付けなければならないのかという視点でキャリア教育を進め、シチズンシップ教育の充実にも繋げる。 ・全県的に探究型学習を実施しており、実施目標を達成するように進めている。前例踏襲とならないように、本校ならではの特徴ある学びに繋がるよう取組を進める。

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
２	部活動のさらなる活性化を推進し、技能の向上を図るとともに、豊かな人間性を身につけた生徒を育成する。	①	新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、面談等を通して他の部活動への再入部を強く勧めていく。	１・２年生の部加入率が Ａ　８５％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　昨年度　８２％	Ｃ ７６％	複数の部活動を兼部している生徒もいるが、昨年度と比べると-6 ポイントであった。部活動でしか得られない魅力をあらゆる場面を通して生徒に伝え、活動する中で、人間的な成長を促したい。
		②	積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも務める。	部活動の指導について　　昨年度　７０％ Ａ　積極的に支援し指導している Ｂ　概ね支援し指導している Ｃ　あまり支援せず指導していない Ｄ　殆ど支援せず指導していない	Ａ＋Ｂ ８４％	昨年度より数値が改善した。働き方改革を意識しながら、限られた時間でより効果的な取り組みが必要である。今までの経験値だけではなく、生徒とコミュニケーションを取る機会をできるだけ取りながら効率的な運営・指導を行い、学校の活性化にも繋げたい。

学校関係者評価委員会の評価	・加入率は問題ではなく、部活動に魅力を感じて取り組む生徒を増やして欲しい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・部活動に入ることのみを目的とせず、高校生活でしか出来ない掛け替えのない経験を日々の練習や大会等を通して得られるようする。

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
３	特別支援学校の生徒との交流やボランティア活動に積極的に参加し共生の理念に基づく地域社会に貢献しようとする生徒を育成する。	①	特別支援学校の生徒との交流を通して、共生社会の実現に向け思いやりの心を育む。	特別支援学校生徒との交流を通して生徒は Ａ　積極的にかかわり満足している Ｂ　おおむね満足している Ｃ　満足度が低い Ｄ　満足度がとても低い	Ａ＋Ｂ ９０％	実技教科の共同学習、部活動での交流を行った。生徒は特別支援学校の生徒と積極的にかかわろうとしていた。次年度は、年間を通しての共同学習、交流を計画しているため、今年度より多くの交流が期待できる。また、多くの生徒が交流することになるため、内容や事前事後指導を充実させていきたい。
		②	福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	ボランティア活動など地域との交流に関する事業に Ａ　積極的に参加している Ｂ　充分とはいえないが、おおむね参加している Ｃ　あまり参加していない Ｄ　全く参加していない　　昨年度　５５％	Ａ＋Ｂ ２３％	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年続いている活動は制限されたが、地域ボランティアで森本駅や湖陽町会などの清掃活動は実施することができた。また、金沢マラソンにも給水ボランティアとして生徒会や JRC の生徒が参加した。来年度感染症が収束すれば、例年通りのボランティア活動に取り組みたい。

学校関係者評価委員会の評価	・ボランティアという言葉は「奉仕」と言われることがあるが、「自発的に」という意味が込められている。「自ら」取り組むきっかけづくりを学校にお願いしたい。また、活動を通して地域に出て、地域と関わっていくことは、生徒はもちろん学校としても大事である。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・従来から実施している清掃活動に加えて、防災等も含めて地域と関わるようなボランティア活動のきっかけを与えられるようにする。

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
４	生徒・保護者・地域の理解を得ながら、組織的で効率的な業務に努め、教職員の多忙化改善に取り組む。	①	教職員の勤務時間調査を継続するとともに、働き方改革に対する意識の向上を目指す。	働き方改革を意識し、時間外勤務短縮に努めている。 Ａ　よくあてはまる Ｂ　ほぼあてはまる Ｃ　あまりあてはまらない Ｄ　あてはまらない　　昨年度　８３％	Ａ＋Ｂ ７９％	1月までの１人当たりの時間外勤務時間の数値について昨年度と今年度を比べると、昨年度58.8時間、今年度は64.2時間で＋5.4時間となった。仕事のスクラップ＆ビルドを進めながら業務の縮減に努めるとともに、限りある時間内で効果的な成果をあげられるように、教職員の意識改革を図る。さらに保護者にも現状を伝え、協力をお願いする。

学校関係者評価委員会の評価	・部活動の担当によって時間外勤務が異なってくるのか。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・部活動については、県内で統一した休養日の遵守を改めて確認するとともに、短時間で効果的に活動を行う。